



神奈川県

KANAGAWA

# 神奈川県 地球温暖化対策計画 概要版

[平成28年10月改定]



遠い国の話だと  
思っていますか？

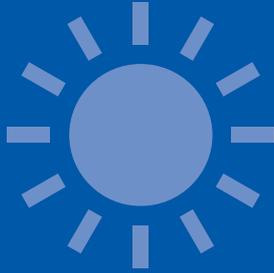


大切な地球のために、  
いま私たちが  
できること

## 世界の平均気温は上昇しています

世界の気温は、この100年間で約1℃上昇しています。

温室効果ガスの排出を削減する努力を、現在行われているものに上乗せしないと、世界全体の排出量の増大はいつまでも続くと言われています。



## 地球温暖化はさまざまな被害をもたらします

氷河の融解、海面水位の上昇、生態系の変化など、さまざまな影響が起こっています。そして、病気の媒体となる生物の生息域の拡大、異常気象の発生など、私たち人間の生命や財産にも大きな被害を与えます。

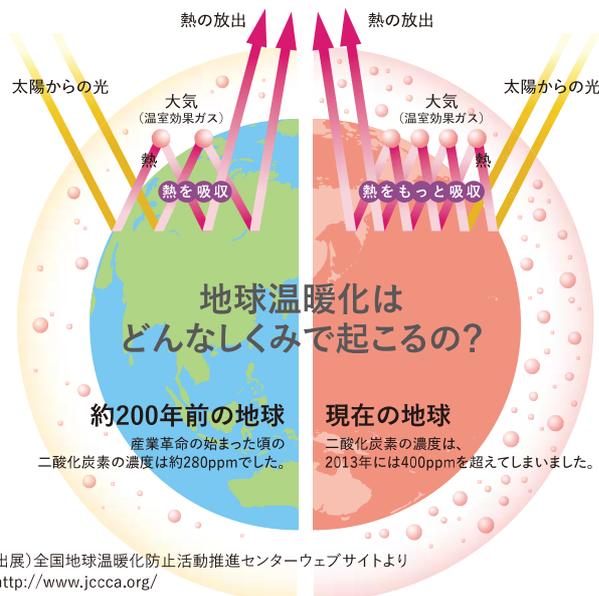
## 世界の地球温暖化対策

2016(平成28)年11月4日に、温室効果ガス削減等の新たな国際的枠組みである「パリ協定」が発効しました。この協定は、歴史上初めて、全ての国が参加する公平な合意です。



# 遠い国の話だと思っています

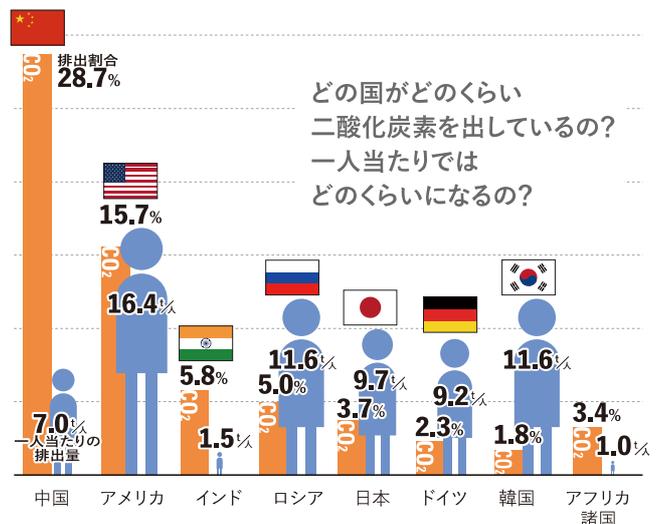
### 温室効果ガスと地球温暖化メカニズム



出展) 全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイトより  
<http://www.jccca.org/>

▶ 温室効果ガスが地球からの熱の放射を妨げ、地表に熱がこもり、気温が上昇しています。

### 世界の二酸化炭素排出量に占める主要国の排出割合と各国の一人当たりの排出量の比較 (2013年)



出典) EDMC/エネルギー・経済統計要覧2016年版  
(全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイトより)  
[http://www.jccca.org/chart/chart03\\_02.html](http://www.jccca.org/chart/chart03_02.html)

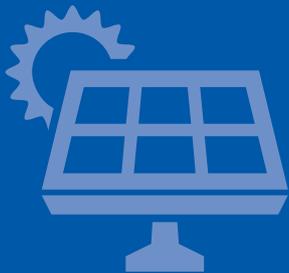
▶ 日本はCO<sub>2</sub>排出量としては中国とインドより少ないですが、一人当たりではその2国より多くなっています。

## 原因は私たちのCO<sub>2</sub>等の排出です

産業革命以降、石油や石炭などの化石燃料を大量にエネルギーとして使用し、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)等の排出量を急速に増加させたことが、地球温暖化の原因となっています。

## 県内の年平均気温も上昇しています

神奈川県内のCO<sub>2</sub>排出量は、1990年度と比べて8.6%増加しています(2013年度速報値)。横浜気象台の観測による年平均気温は、長期的に上昇傾向にあり、100年当たり1.8°Cの割合で上昇しています。



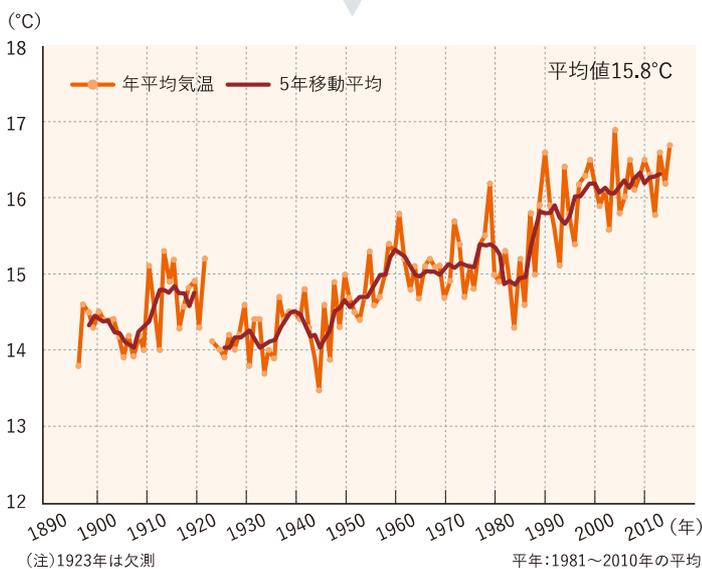
## 家庭から排出されるCO<sub>2</sub>

県内の家庭部門(家庭生活での電気やガスの使用など)のCO<sub>2</sub>排出量は、2005(平成17)年度と比べると約15%増加しています。2011(平成23)年度以降、節電の取組が進んだものの、火力発電の発電量の増加や、県内の人口の増加などが要因となっています。



# せんか? 地球温暖化を防ぐには、 私たち一人ひとりの取組が必要です。

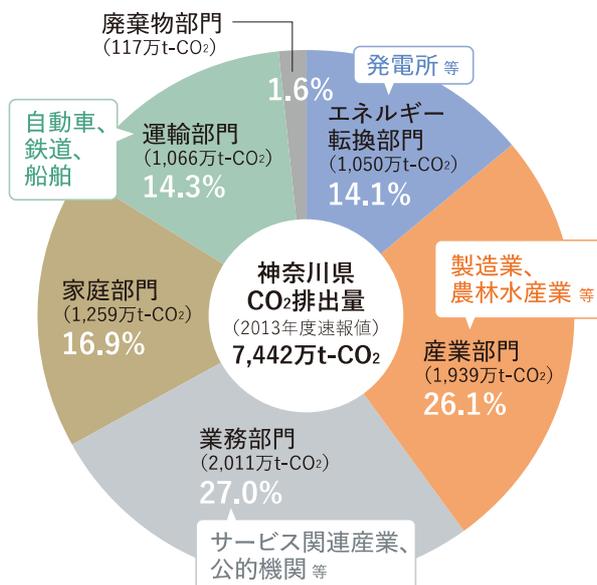
### 横浜における年平均気温の経年変化



出典)気象庁ウェブサイトより  
<http://www.jma-net.go.jp/yokohama/koumoku/yoko500.htm>

▶ 横浜の年平均気温は、  
100年当たり1.8°Cの割合で上昇しています。

### 県内の部門別CO<sub>2</sub>排出量 (2013年度速報値)



▶ 企業や県民の皆さん一人ひとりの  
意識改革が必要です。

# 計画の概要

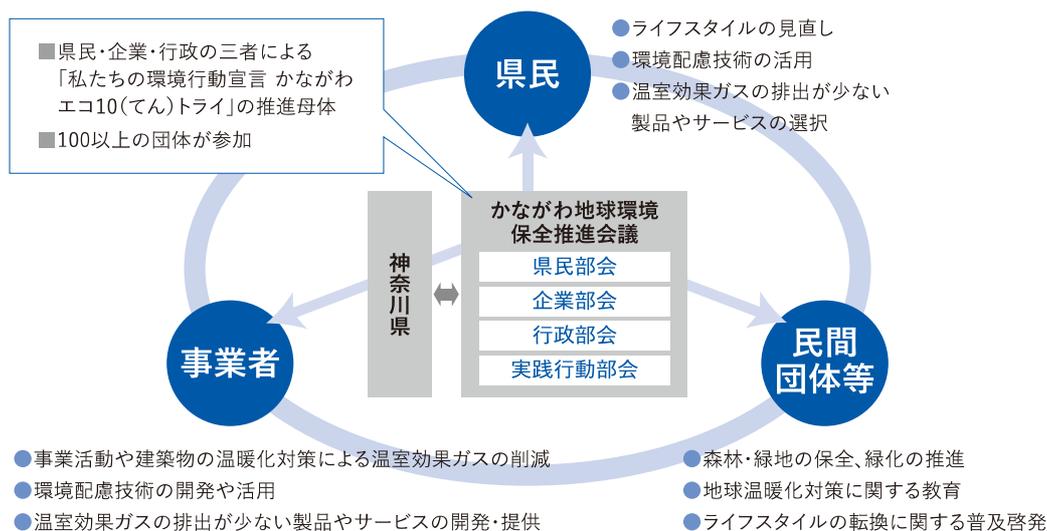
「神奈川県地球温暖化対策計画」は、事業者や県民の皆さんの自主的な温暖化対策の促進を図り、化石燃料に依存したエネルギー多消費型の社会から地球環境への負荷が少ない低炭素社会への転換を促すため、県の地球温暖化対策に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図る計画です。

## 計画期間

2016(平成28)年度から2030(平成42)年度までの15年間

## 基本的な方針

地球温暖化問題はすべての事業者や県民の皆さん、あらゆる分野に及ぶ課題です。一人ひとりがそれぞれ主体的に「今、できること」から行動し、また、相互に連携・協働して温暖化対策に取り組むことが必要です。

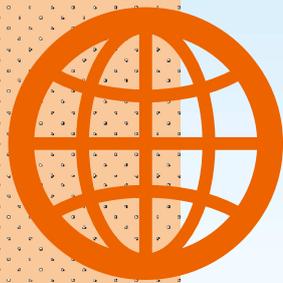


## パリ協定とは

「京都議定書」後の、2020年以降の温室効果ガス排出削減等を定めた新たな国際的枠組みです。2015年11月～12月に開催されたCOP21(国連気候変動枠組条約第21回締約国会議)で採択され、2016年11月4日に発効しました。

### パリ協定の主なポイント

- ▶世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べて2°Cより十分低く保つとともに、1.5°Cに抑える努力を追求する。この長期目標を達成するよう、今世紀後半に人為的な温室効果ガスの排出と吸収源による除去の均衡を達成するために、早期の削減を行う。
- ▶適応の長期目標の設定及び各国の適応計画プロセスと行動の実施

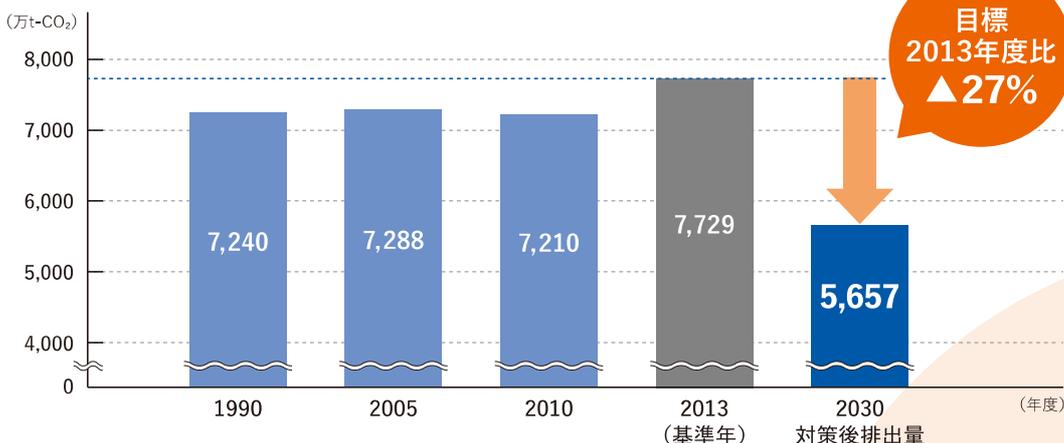


# 緩和策

(地球温暖化の防止を図るための取組)

## 温室効果ガスの削減目標

2030(平成42)年度の県内の温室効果ガスの総排出量を、2013(平成25)年度比で27%削減することを目指します。



## 主な取組

### 産業部門の削減対策 (製造業、農林水産業など)

- 「事業活動温暖化対策計画書」による大規模事業者の自主的な温室効果ガス削減の促進
- 中小規模事業者に対する省エネルギー診断などの支援
- 農業や畜産業での省エネルギー等の技術開発、地産地消の推進

### 業務部門の削減対策 (小売業・サービス業、公的機関など)

- 建築物温暖化対策計画書制度やZEB<sup>(※1)</sup>の普及による建築物の省エネルギー化
- BEMS<sup>(※2)</sup>等の導入、設備や機器の高効率化の促進

### 家庭部門の削減対策 (家庭生活における電気やガスの使用など)

- 家庭における省エネルギーの実践など低炭素型のライフスタイルの促進
- 高断熱・高气密など省エネルギー性能の高い住宅やZEH<sup>(※1)</sup>の普及による住宅の省エネルギー化
- HEMS<sup>(※2)</sup>の導入、省エネルギー性能に優れた家電製品や高効率な給湯設備<sup>(※3)</sup>の普及



(※1)ZEB、ZEH:ネット・ゼロ・エネルギー・ビル、ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス。大幅な省エネルギー化を実現した上で、再生可能エネルギーを導入することで、年間の一次エネルギー消費量の収支をゼロとすることを目指した建築物や住宅

(※2)BEMS、HEMS:Building Energy Management System、Home Energy Management Systemの略。建築物や住宅において、エネルギー消費機器と太陽光発電システムや蓄電池等のネットワーク化などにより、エネルギー管理を行うシステム

(※3)高効率な給湯設備:潜熱回収型給湯器(エコジョーズ、エコフィール等)、ヒートポンプ式給湯器(エコキュート)などのエネルギー効率の高い給湯設備

## 運輸部門の削減対策（自動車の運転など）

- 電気自動車(EV)や燃料電池自動車(FCV)など、環境負荷の少ない自動車等の利用促進
- 急発進・急停止をしない、不要なアイドリングをしないなどエコドライブの促進
- 鉄道やバスなどの公共交通機関や自転車などの利用促進



## 再生可能エネルギー等の分散型電源の導入促進

- 太陽光発電や小水力発電、太陽熱など再生可能エネルギー等の導入促進
- ガスコージェネレーション、水素エネルギー、蓄電池などを使用した「安定した分散型電源」の導入拡大



## 地球温暖化対策教育

- 県内の小・中学校、高校等を対象とした、企業・団体等の方々による実験等を交えた体験型授業の実施（環境・エネルギー学校派遣事業～かながわ環境教室～）
- 大学生や大学院生を対象とした、環境配慮に積極的に取り組んでいる企業でのインターンシップの実施（神奈川県環境インターンシップ）



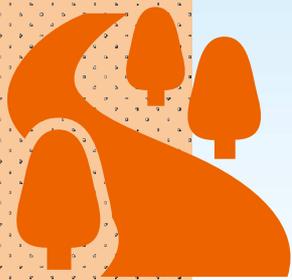
## その他の取組

- 廃棄物部門の削減対策
- 環境・エネルギー産業の振興
- 低炭素型のまちづくり
- 森林等の整備・保全
- フロン類対策
- 広域連携・国際環境協力

## かながわ地球環境賞

県とかながわ地球環境保全推進会議では、地球環境保全に向けた実践的活動や温室効果ガスの排出削減に寄与する優れた取組を行った団体（企業、行政、学校、NPO等）や個人に対し、その功績を称え、表彰を行っています。





# 適応策

(地球温暖化への適応を図るための取組)

地球温暖化を防ぐための取組(緩和策)にこれまで以上に取り組むとともに、それでも避けられない地球温暖化による影響に対して被害を最小限に食い止めるための取組(適応策)も進めていく必要があります。



## 影響による被害を最小限に抑えるための取組(適応策)

- 影響の把握(モニタリング調査、情報収集等)
- 対策の研究、技術支援
- 影響や対策についての普及啓発

## 日常生活での適応策の例

- 自然災害の発生に備えて、避難経路やハザードマップ等を確認する
- 熱中症の症状や対策を知り、予防をする



# 計画の進行管理

毎年度、県内の温室効果ガス排出量や重点施策の実施状況等を県ホームページ等で公開します。

# 大切な地球のために、 いま私たちができること

日常生活の中で環境にやさしい行動を選ぶ。  
一人ひとりの小さな積み重ねがCO<sub>2</sub>などの温室効果ガス排出削減につながります。  
身近に取り組める行動の例を紹介します。

## 節電、節水

電気をこまめに消す。水を大切に使う。お風呂は家族で間隔をあけずに入浴する。



## 省エネルギー性能に 優れた家電を使う

照明をLEDにする。冷蔵庫やエアコンなどの家電を買い替えるときに、省エネルギー性能に優れた製品を選ぶ。

## 環境にやさしい自動車

自動車を買うときに、環境性能に優れ、エネルギー効率の高い自動車を選ぶ。運転するときに、急発進を避け一定速度で走るなどエコドライブを心掛ける。



## 住宅の省エネルギー化

窓や壁に断熱性の高い素材を使った「省エネルギー住宅」を選ぶ。冷暖房の効率が良くなるほか、結露が減りカビが発生しにくいなどの利点もあります。



## 太陽光発電など 再生可能エネルギーの使用

太陽光発電などを自宅に設置するほか、電気事業者を選ぶ際に再生可能エネルギーの割合が高いなど環境に配慮している事業者を選ぶ。

## ごみを減らす 「3R（スリーアール）」

リデュース（ごみを減らす）、リユース（繰り返し使う）、リサイクル（資源として再生利用する）に取り組む。



## 地産地消

遠くから輸送された食材や品物ではなく、県産のものを買う、エネルギー消費量やCO<sub>2</sub>を削減する。



## マイエコ10（てん）宣言

地球環境問題を自分のこととして考え、解決するための行動メニューの中から、自分が取り組みたい「環境にやさしい行動」を選んで宣言し、実践する。

神奈川県地球温暖化対策計画は下記ホームページで御覧いただけます。  
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f417509/>